

2022年5月31日

化学のココロ。

GCI

GUN EI Chemical Industry

2022年3月期決算説明資料

群栄化学工業株式会社

Gun Ei Chemical Industry Co., Ltd.

(証券コード：4229 プライム市場)

1. 会社概要
2. 2022年3月期 業績・財務概要
3. 2023年3月期 業績予想
4. 「GCIグループ中期経営方針2024」について

1. 会社概要

2. 2022年3月期 業績・財務概要

3. 2023年3月期 業績予想

4. 「GCIグループ中期経営方針2024」について

企業理念 化学の知識とアイデアでソリューションを提供し、より豊かな未来社会創りに貢献する

社名 : 群栄化学工業株式会社 (略称 )

本社所在地 : 群馬県 高崎市 宿大類町 700

代表者 : 代表取締役 社長執行役員 有田 喜一郎

設立 : 1946年1月23日 (創業 77年目)

上場区分 : 東京証券取引所 プライム市場

資本金 : 50億円

従業員数* : 505人 (連結) / 342人 (単体)

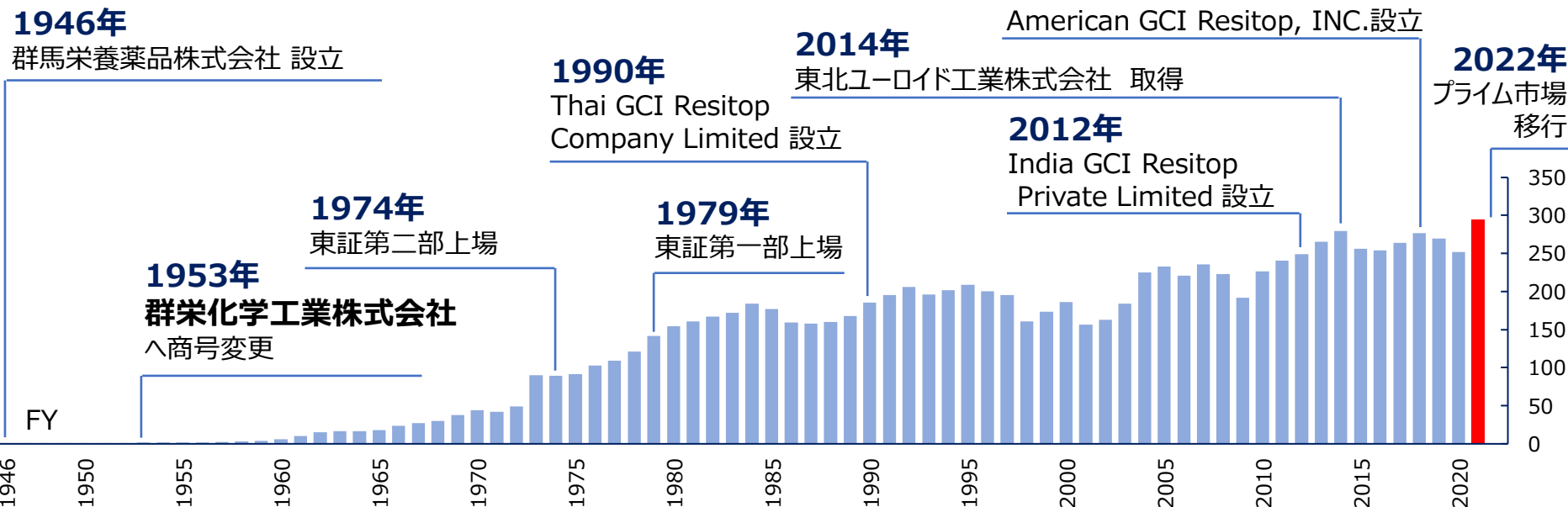
売上高 : 294億6百万円 (連結)

営業利益 : 24億89百万円 (連結)



代表取締役 社長執行役員
有田 喜一郎

*2022年3月末時点



1946年～
ぶどう糖 生産開始

1951年～
工業用フェノール樹脂 生産開始

1960年代～
鋳物用・塗料用樹脂
などの販売で業績拡大

1980年～
フォトレジスト用ノボラック樹脂
生産開始

1982年～
高機能ノボロイド繊維
「カイノール」生産開始

1990年～
タイGCI設立、グローバル展開開始

2000年～
穀物糖化液 生産開始

2010年～
電子材料分野を中心とした業績拡大

2018年～
高機能摩擦材用樹脂「ミレックス」事業買収
北米市場の拡大（アメリカンGCIの設立）

食品（澱粉糖、穀物糖化液 等）

- ・ 飲料、甘味
（清涼飲料、ビール系、菓子類）
- ・ 穀物ミルク原料
- ・ 化粧品原料



オーツミルクの素



高機能繊維
カイノール

不動産活用業 1%

等

環境材料 5%

食品
16%

2022年3月期
連結売上高
294億円

化学品
83%

工業材料
51%

化学品（フェノール樹脂 等）

- ・ 電子材料
- ・ 工業材料
（自動車・機械・住宅・成形材料 他）
- ・ 環境材料（溶剤回収向けカイノール）

等

電子材料
27%



フォトレジスト用樹脂

内側：当社セグメント別売上高比率
外側：用途別売上高比率

化学品と食品の事業を併せ持つ
ユニークな「素材メーカー」です。

当社の用途と製品の特長について

用途			製品・技術・特徴など	主なユーザー
化学品セグメント	電子材料	電子材料	レジスト用ノボラック樹脂（トップシェア） 半導体周辺材料 高純度化技術 品質管理能力	レジストメーカー 半導体材料メーカー
	自動車 各種機械	工業材料	鋳物用バインダー「α system」「β system」「NFURAN」など 高機能摩擦材用樹脂「ミレックス」 工業用フェノール樹脂「レヂトップ」 ユーザー毎個別のカスタマイズ	鋳造メーカー ブレーキメーカー
	住宅 成形材料 その他工業用途			断熱材メーカー 成形部品メーカー 塗料メーカー
	環境・溶剤回収 航空宇宙 難燃繊維	環境材料	高機能繊維「カイノール」 真球状樹脂 フェノール樹脂繊維の特徴的性質	溶剤回収装置メーカー 航空機部品メーカー 防護服メーカー
食品セグメント	清涼飲料 菓子類	食品	澱粉糖製品群（異性化糖 など） ピュアトース（マルトトリオース）	飲料メーカー 菓子メーカー
	ビール系飲料 穀物ミルク		麦芽エキス製造技術 穀物糖化技術	飲料メーカー
	化粧品原料		糖誘導品	化粧品原料メーカー

群馬県高崎市

本社・技術開発センター
群馬工場
(化学品・食品製造)
高崎支店

滋賀工場
(化学品製造)

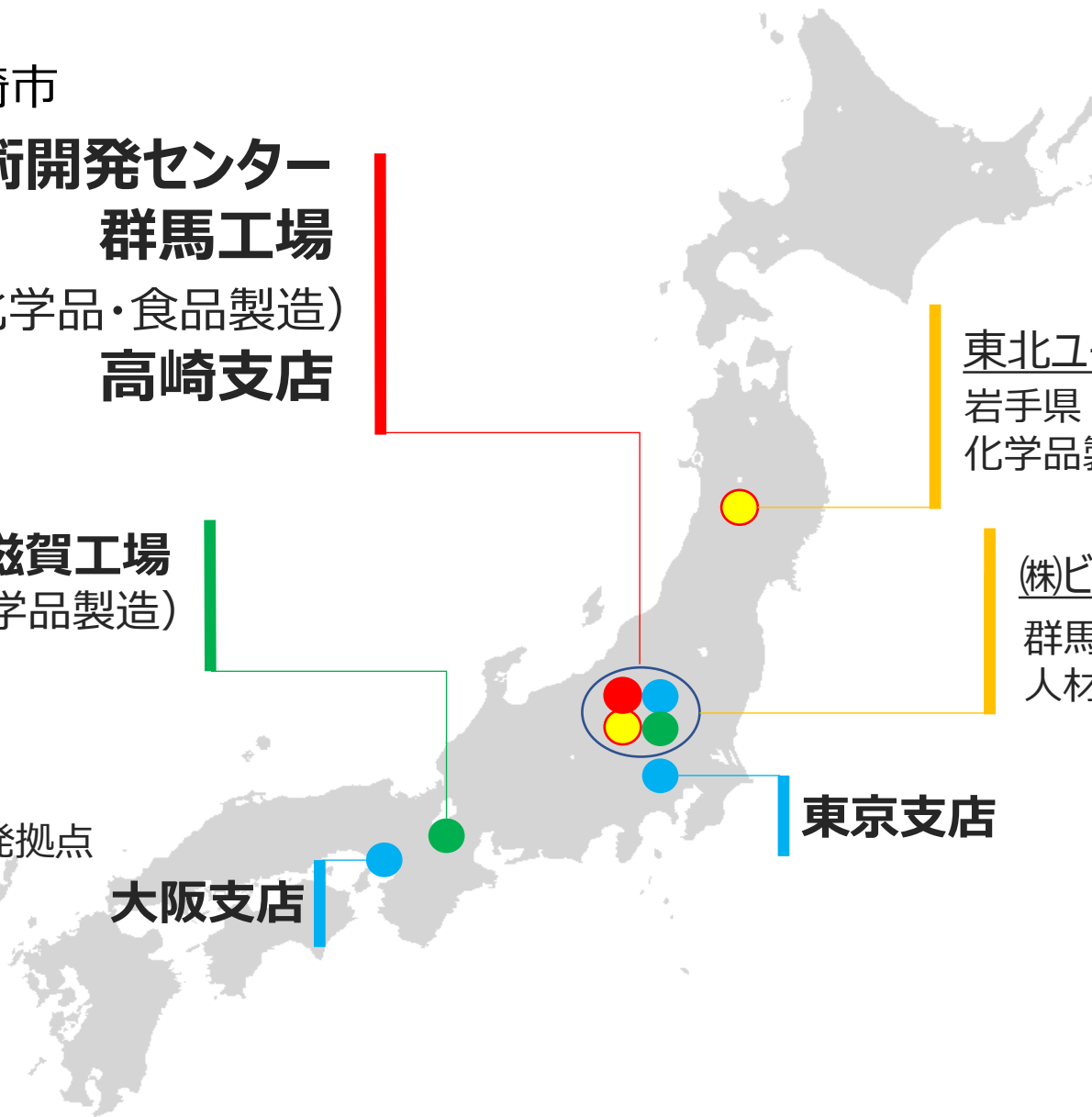
東北ユーロイド工業(株)
岩手県
化学品製造、受託製造

(株)ビッグトレーディング
群馬県
人材派遣

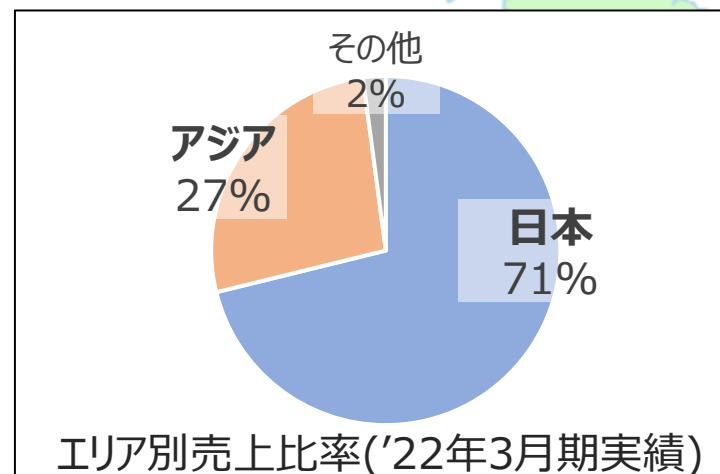
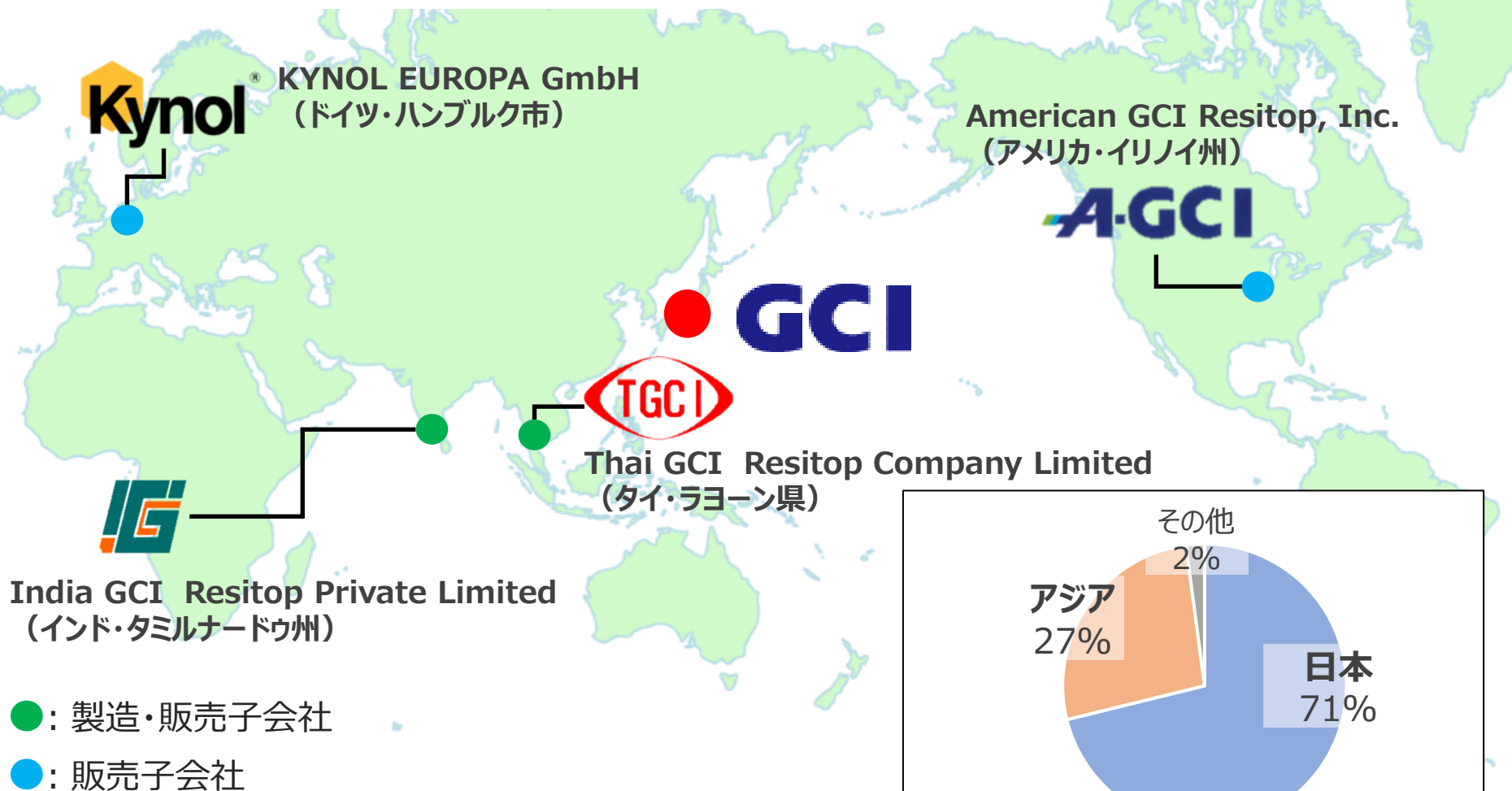
東京支店

大阪支店

- : 本社・開発拠点
- : 製造拠点
- : 販売拠点
- : 子会社



グローバルに高品質な材料を
提案・供給できる環境を整備しております。



1. 会社概要

2. 2022年3月期 業績・財務概要

3. 2023年3月期 業績予想

4. 「GCIグループ中期経営方針2024」について

売上高： 新型コロナウイルスの影響を受けた前期と比較し、市況は回復傾向。原材料価格高騰の影響もあったが価格是正を進めた結果、増収。売上高は過去最高を更新。

利 益： 売上高の増加、高付加価値製品の拡販等により3期連続の増益。

単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期	増減	前期比
売上高	25,194	29,406	+4,212	16.7%
化学品	20,724	24,462	+3,738	18.0%
食品	4,223	4,697	+474	11.2%
不動産	246	247	+1	0.4%
営業利益	2,217	2,489	+272	12.3%
化学品	2,191	2,326	+135	6.2%
食品	▲139	▲0	+139	—
不動産	164	163	▲1	▲0.6%
経常利益	2,451	2,815	+364	14.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,607	1,929	+322	20.0%
売上高営業利益率	8.8%	8.5%	▲0.3pt	—

2022年3月期 営業利益増減要因

売上高増加 +42.1億円

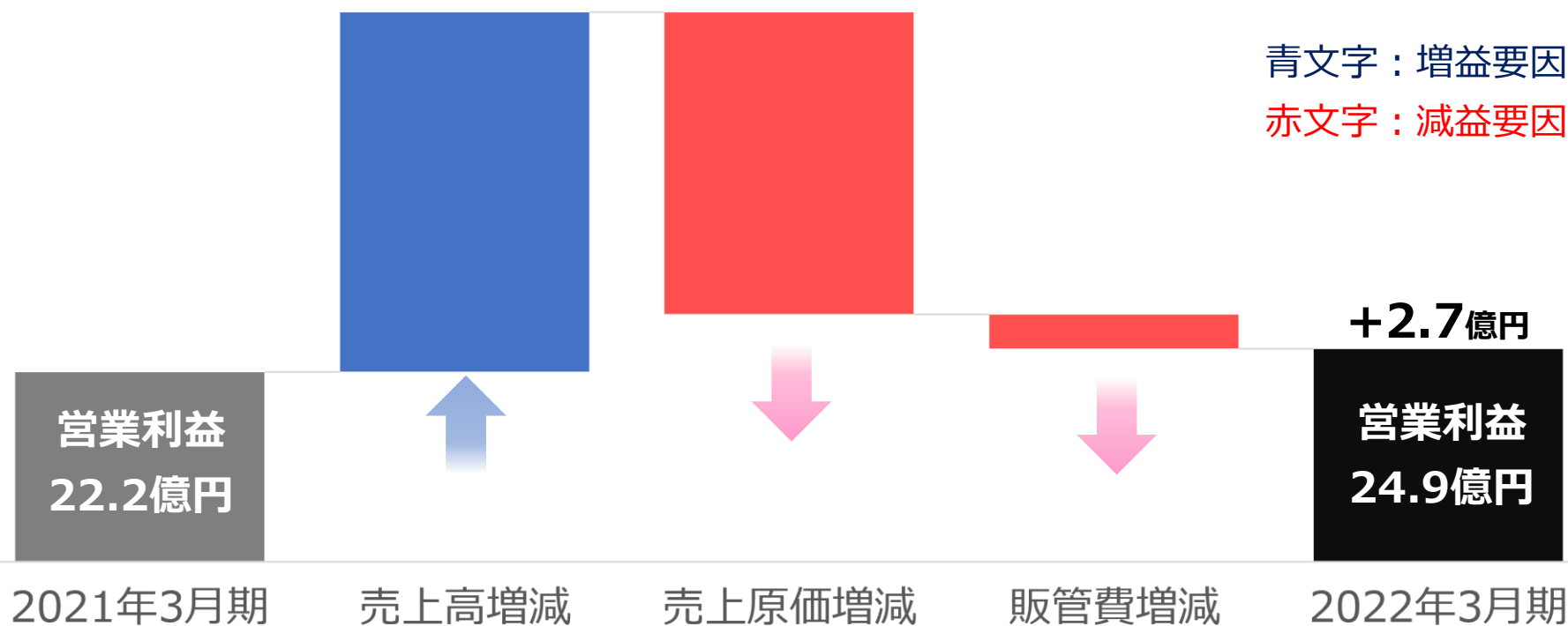
化学品	+37.4億円
内 電子材料	+12.2億円
食品	+4.7億円

売上原価の増加 +35.4億円

原材料費増加	+37.3億円
光熱費増加	+1.9億円
他	

販管費の増加 +4.0億円

試験研究費増加	+1.7億円
運送費増加	+1.1億円
他	



化学品セグメント

- 電子材料**： 半導体、液晶向け樹脂は一昨年から続く国内外の需要拡大により高水準を維持。
- 工業材料**： 一部で自動車減産の影響を受けたが全般的には回復基調。各種機械向けは好調。
- 環境材料**： 航空機向け、溶剤回収向けカインールが増加。

食品セグメント

- 飲料**： 一部飲料向け製品の回復、原材料価格高騰分の価格是正を実施。
- 穀物ミルク**： 穀物糖化技術を活かしたプラントベースフード向け新製品として「オーツミルクの素」を市場投入。

単位：百万円

	2021年3月期 売上高	2022年3月期 売上高	増減 (%)
化学品	20,724	24,462	+3,738 (18.0%)
電子材料	7,073	8,295	+1,222 (17.3%)
工業材料	12,440	14,615	+2,175 (17.5%)
環境材料	1,210	1,551	+341 (28.2%)
食品	4,223	4,697	+474 (11.2%)
不動産	246	247	+1 (0.4%)

貸借対照表

単位：百万円

	2021/3月 期末	2022/3月 期末	増減額	主な増減要因
流動資産	22,938	24,338	+1,400	売上債権増加
有形固定資産	18,366	19,164	+798	棚卸資産増加 設備投資
無形固定資産	412	259	▲153	のれん償却
投資その他の資産	10,267	10,917	+650	投資有価証券の購入
流動負債	6,059	7,499	+1,440	買掛金増加 設備未払金増加
固定負債	2,174	2,280	+106	
純資産	43,750	44,899	+1,149	当期純利益計上
負債純資産合計	51,984	54,680	+2,696	

主な増減要因

営業CF：原料高による売上債権、棚卸資産の増加、退職一時金制度から
確定給付企業年金への制度移行による拠出

投資CF：投資有価証券の購入

財務CF：長期借入金を前期完済、自己株の買付未実施

単位：百万円

	2021/3月期末	2022/3月期末	増減
営業CF	3,567	2,447	▲1,120
投資CF	▲806	▲942	▲136
財務CF	▲1,310	▲746	+564
換算差額	▲111	▲5	+106
増減額	1,340	753	—
現金及び現金同等物 期末残高	8,825	9,579	+753

1. 会社概要

2. 2022年3月期 業績・財務概要

3. 2023年3月期 業績予想

4. 「GCIグループ中期経営方針2024」について

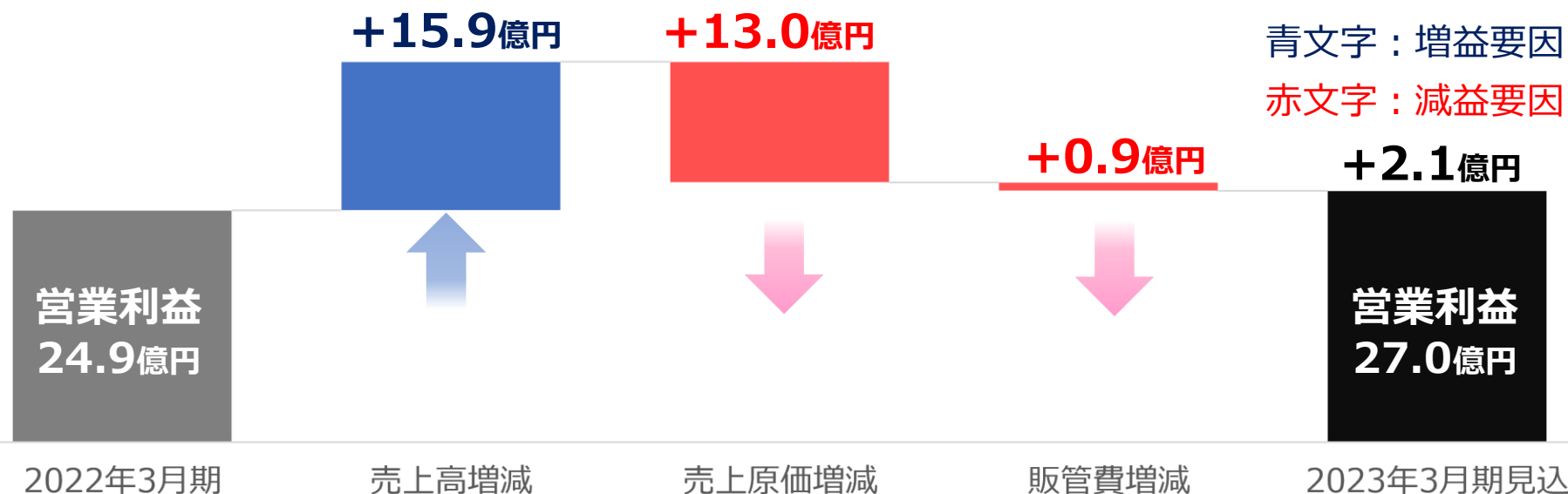
化学品：半導体、液晶向け及び溶剤回収向けが引続き好調を見込む。自動車産業向けは生産台数減少の影響により上期は低調、下期からの回復を見込む。

食品：飲料向けの数量に影響を及ぼす各種イベントの開催は不透明、前年並みを見込む。「オーツミルクの素」数量増加見込み。

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	増減	前期比
売上高	29,406	31,000	+1,594	+5.4%
化学品	24,462	25,650	+1,188	+4.9%
食品	4,697	5,100	+403	+8.6%
不動産	247	250	+3	+1.2%
営業利益	2,489	2,700	+211	+8.5%
化学品	2,326	2,480	+154	+6.6%
食品	▲0	70	+70	—
不動産	163	150	▲13	▲8.0%
経常利益	2,815	3,000	+185	+6.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,929	2,200	+271	+14.0%
売上高営業利益率	8.5%	8.7%	+0.2pt	—

化学品	電子材料：拡大する半導体市場への対応、増産体制の確立 （設備投資額：約10億円 2023年稼働予定、能力約30%アップ） 環境材料：カイノール（溶剤回収向けなど）生産能力拡大および拡販 （設備投資額：約1億円 2022年稼働予定、能力約30%アップ） グループ生産連携による生産性向上（CO₂削減対応含む）
食 品	「オーツミルクの素」生産能力拡大および拡販 価格是正及び生産効率の向上（原価低減など）

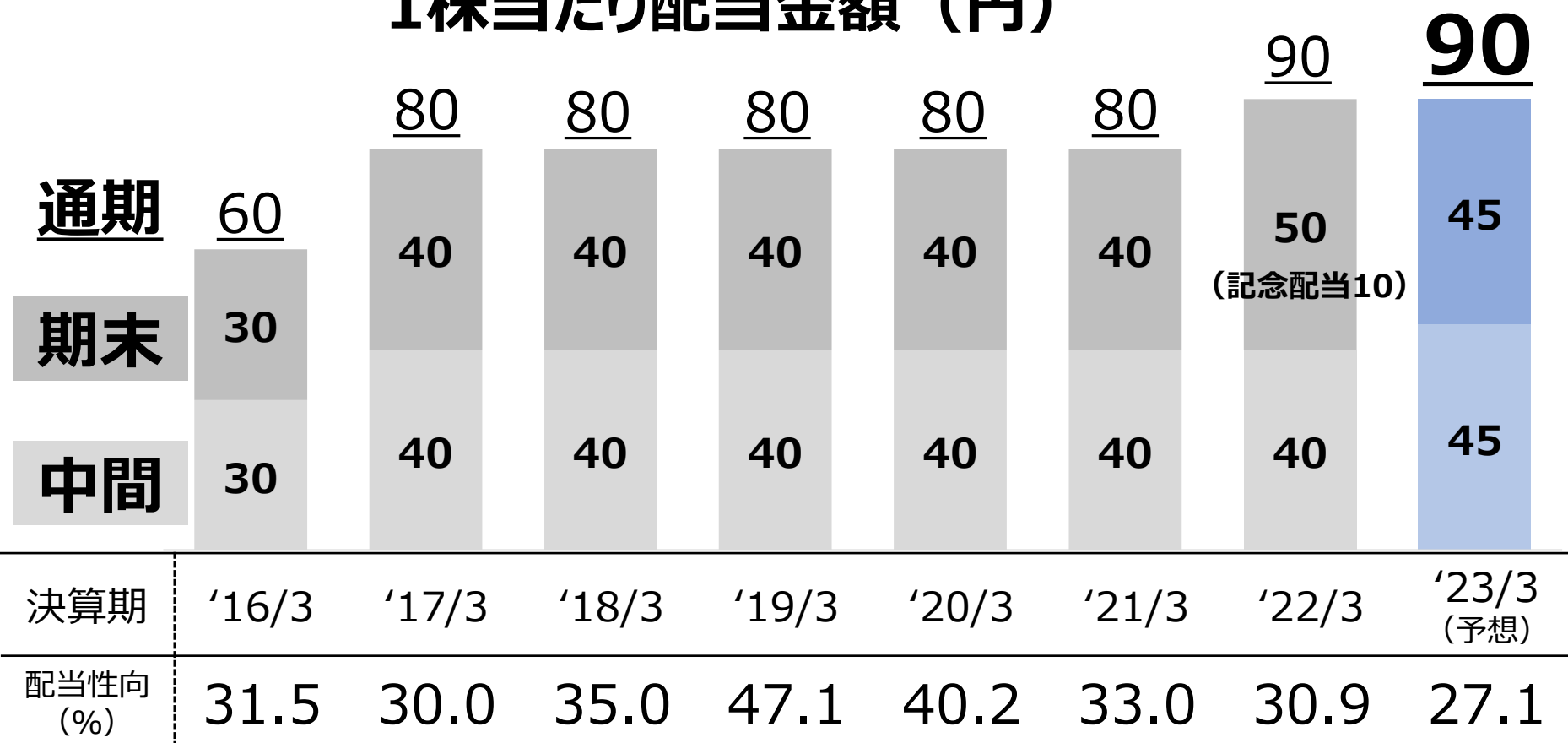


主なリスク： 原油価格高騰や円安進行による原材料費、光熱費の増加 など

1株当たりの配当の向上に努め、

配当性向 30% を目安に安定的な配当を目指してまいります。

1株当たり配当金額（円）



1. 会社概要
2. 2022年3月期 業績・財務概要
3. 2023年3月期 業績予想
4. 「GCIグループ中期経営方針2024」について

社是

節約・勤勉・合理主義

無駄を省き、理にかなった行動で、仕事をやりぬく

理念

化学の知識とアイデアでソリューションを提供し、
より豊かな未来社会創りに貢献する

長期ビジョン（ありたい姿）

合成・糖化技術の開発・再構築によりグローバルにソリューションを提供し、社会の持続的成長に貢献できる**“Green・Chemical・Industry(GCI)”**となる

外部環境

- ◆ 環境問題への対応加速
- ◆ 資源循環型社会への転換
- ◆ デジタル化の加速
- ◆ 健康食品への意識の高まり

課題

- ◆ 食品事業の構造改革
- ◆ 電材に続く収益の柱の創出
- ◆ 経済的価値と社会的価値の両立
- ◆ サステナビリティを巡る課題への対応



**強みを活かし、社会的課題解決、顧客ニーズに応えるため
ポートフォリオの変革が必要**

- 当社の**強み・機会**を活かした分野（電材、環境、食品）への資源投入
- 環境、食品を中心とした**Green分野**の成長

社会的 課題・ ニーズ

- ・ デジタル化の加速
- ・ 半導体需要増大
- ・ モビリティ、MI/DX

電子材料

- ・ 資源循環型社会
- ・ EV車の普及
- ・ 再エネ・省エネ

環境材料

- ・ 健康食品への意識の高まり
- ・ バイオマス

食品

- ・ CO2削減
- ・ サステナビリティ
- ・ サプライチェーン変化

GCIグループ 保有技術・ 強み

- ・ 高いシェア
- ・ 低メタル化技術
- ・ 品質管理能力

- ・ カイノールの特徴的性質
- ・ 硬化技術

- ・ 穀物糖化技術
- ・ 糖化設備
- ・ 糖+化学の融合

- ・ 幅広い用途
- ・ 合成ノウハウ
- ・ 国内・海外拠点

4つの 方向性

**高純度・
先端材料**

電材分野

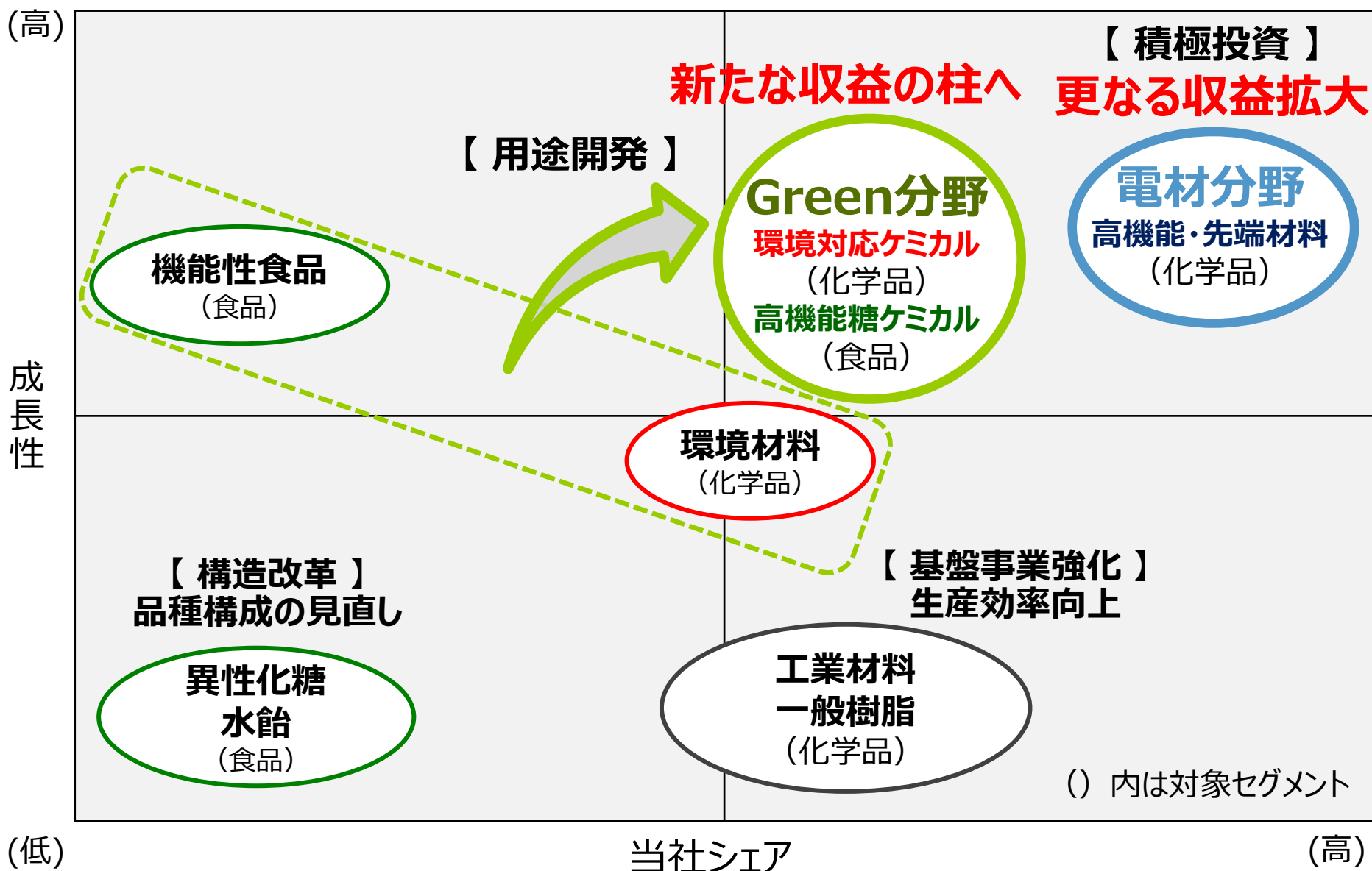
**環境対応
ケミカル**

**高機能
糖ケミカル**

Green分野

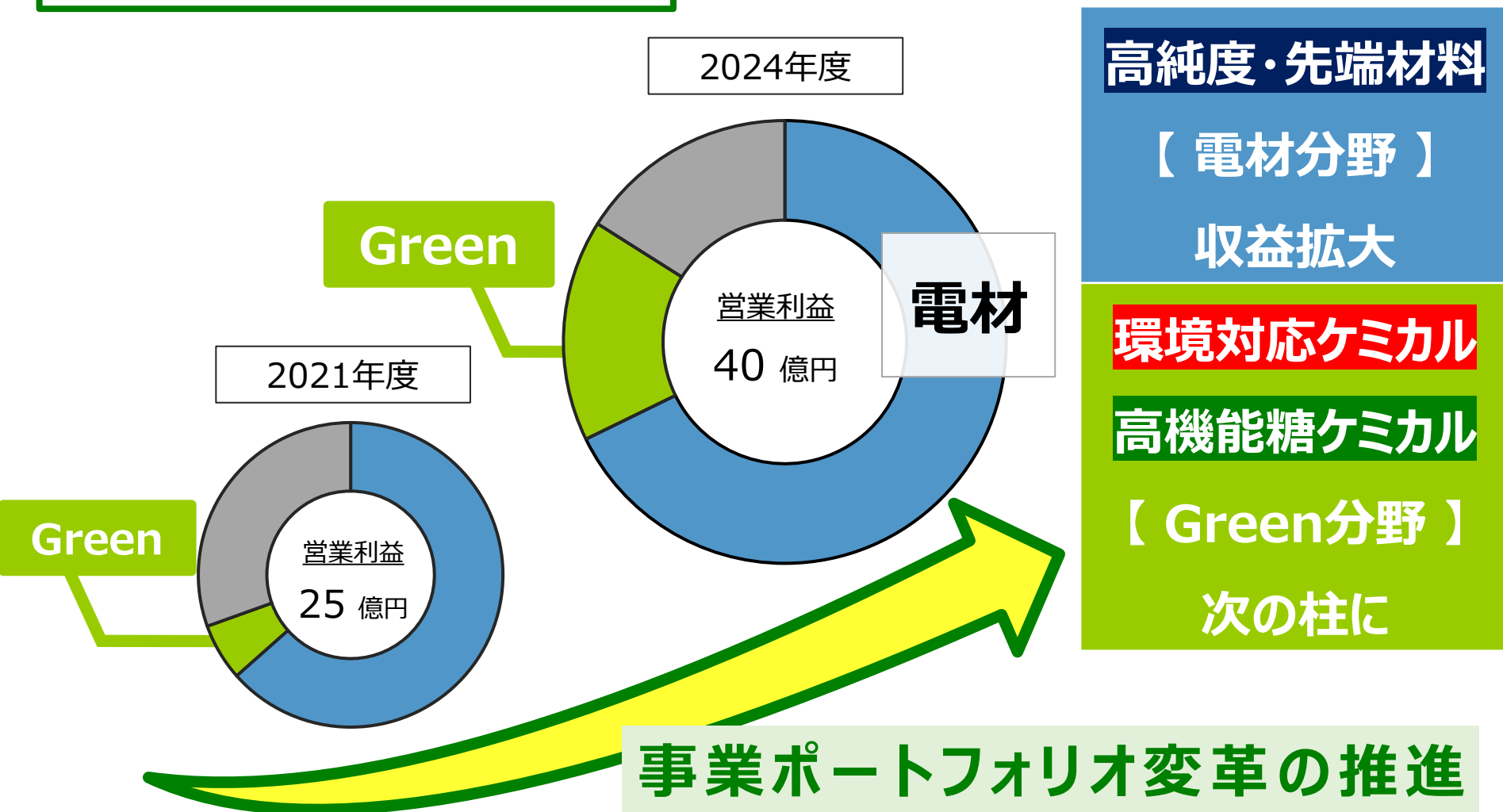
**経営基盤
強化**

人材育成、CO2削減、
グループ強化、等



中長期的利益構造イメージ

Green分野：環境・食品分野、等



基本方針

1. 新規事業創出のための基盤作り
2. サステナビリティを巡る課題への取り組み
3. 経営基盤の強化
4. 生産性向上、収益力強化

4つの目指す方向性

① 高純度・先端材料	② 環境対応ケミカル	③ 高機能糖ケミカル	④ 経営基盤強化
電材分野	Green分野		

数値目標

財務目標	2021 年度 (実績)	2024 年度 (目標)
売上高	294 億円	350 億円
営業利益	25 億円	40 億円
営業利益率	8.5 %	11 %

非財務目標	2030 年度 (目標)
CO ₂ 排出量 *	30 % 削減

*Scope 1・2, 2013年度比

設備投資計画

55億円 (内、電子材料関連戦略投資：15億円)

方針達成のための目指す方向性 (重点施策)

高純度・先端材料

液晶・i線フォトリソ用ホバラク樹脂 世界シェア No.1

- フォトリソ用樹脂をはじめとする電子材料分野への重点投資による事業拡大

【電子材料分野売上高】年平均成長率目標：10% (2021-2024年度)

- 高純度・低メタル化技術の深耕による先端材料分野の開発強化



環境対応ケミカル

世界唯一のホバロイト繊維「カイノール」等を活かした社会貢献

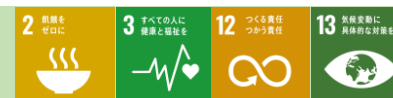
- カイノール(溶剤回収用途等)を中心とした環境対応製品の拡販
- LCA対応による環境負荷低減システム開発



高機能糖ケミカル

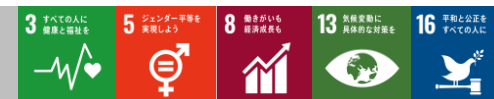
化学と糖に関する技術を融合したGreen Chemistry の実現

- 植物性ミルクの素などの高付加価値製品の拡販
- 大学等外部機関とのアライアンス強化による糖ケミカル材料開発



経営基盤強化

- サステナビリティを巡る課題への取り組み強化、従業員エンゲージメントの向上
- グループ生産の最適化

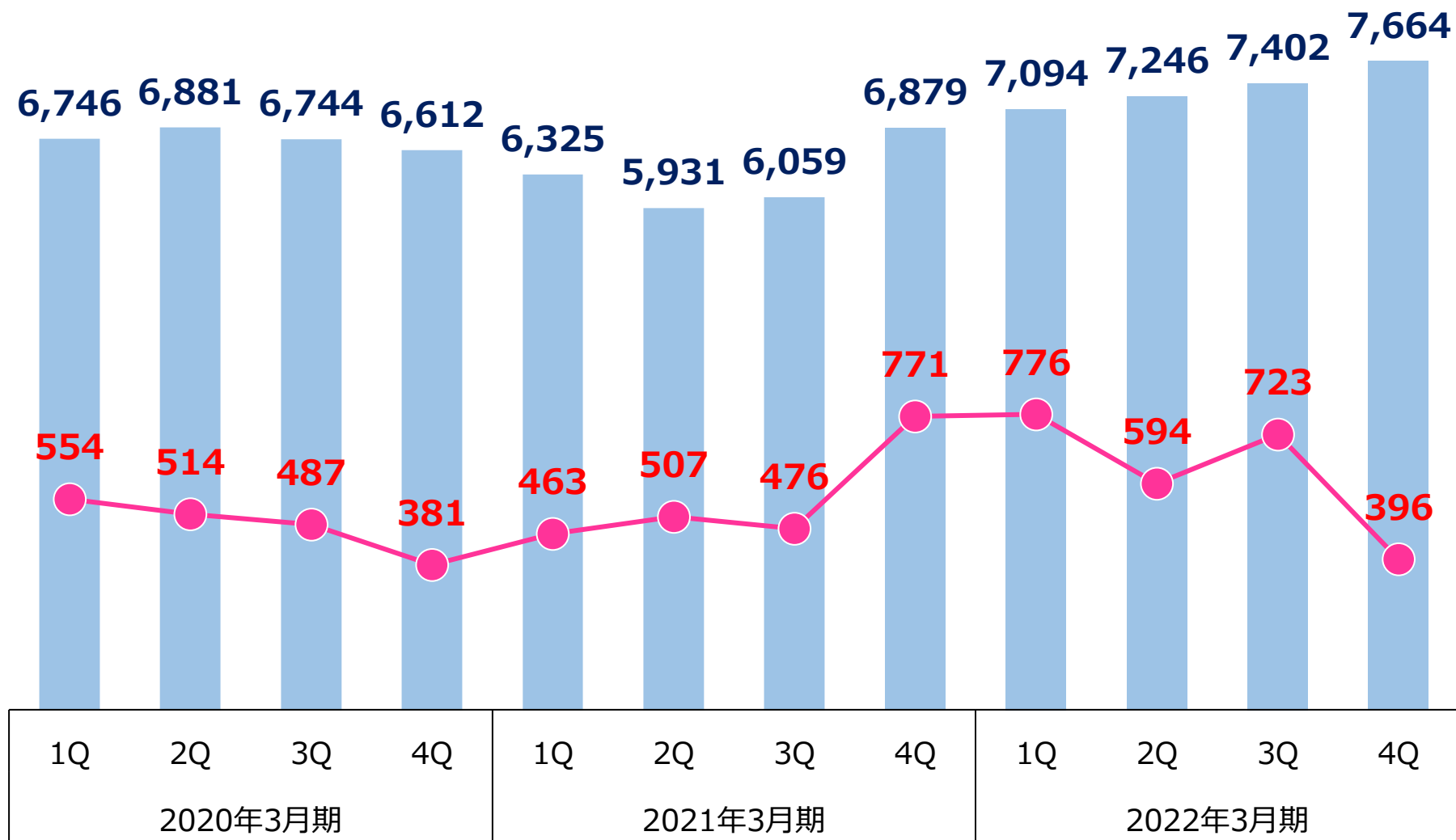


Appendix

Q on Q業績推移

単位：百万円

■売上高 ●営業利益



主要な経営指標等の推移

【 連結 】

回次		第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
決算年月		2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月
売上高	(百万円)	26,393	27,636	26,983	25,194	29,406
経常利益	(百万円)	2,708	1,836	2,141	2,451	2,815
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	1,583	1,176	1,370	1,607	1,929
包括利益	(百万円)	2,116	351	1,410	2,602	1,826
純資産額	(百万円)	41,954	41,746	42,020	43,750	44,889
総資産額	(百万円)	52,205	51,048	50,626	51,984	54,680
1株当たり 純資産額	(円)	5,852.33	5,813.59	6,014.34	6,367.01	6,550.74
1株当たり 当期純利益金額	(円)	228.59	169.77	198.93	242.06	291.13
自己資本比率	(%)	77.7	78.9	79.8	81.2	79.4
自己資本利益率	(%)	4.0	2.9	3.4	3.9	4.5
株価収益率	(倍)	15.3	15.2	12.3	10.5	10.3

＜見通しに関する注意事項＞

本資料の業績予想・見通しは資料作成時点において入手可能な情報に基づいて判断したものであり、将来の計画数値、施策の実現を保証するものではありません。

問合せ先：コーポレート本部 IR担当

TEL: 027-353-1818（代表）